

大阪朝日新聞附錄
熱河探檢畫報

昭和八年十月五日大阪朝日新聞
第壹萬八千六百五十號附錄

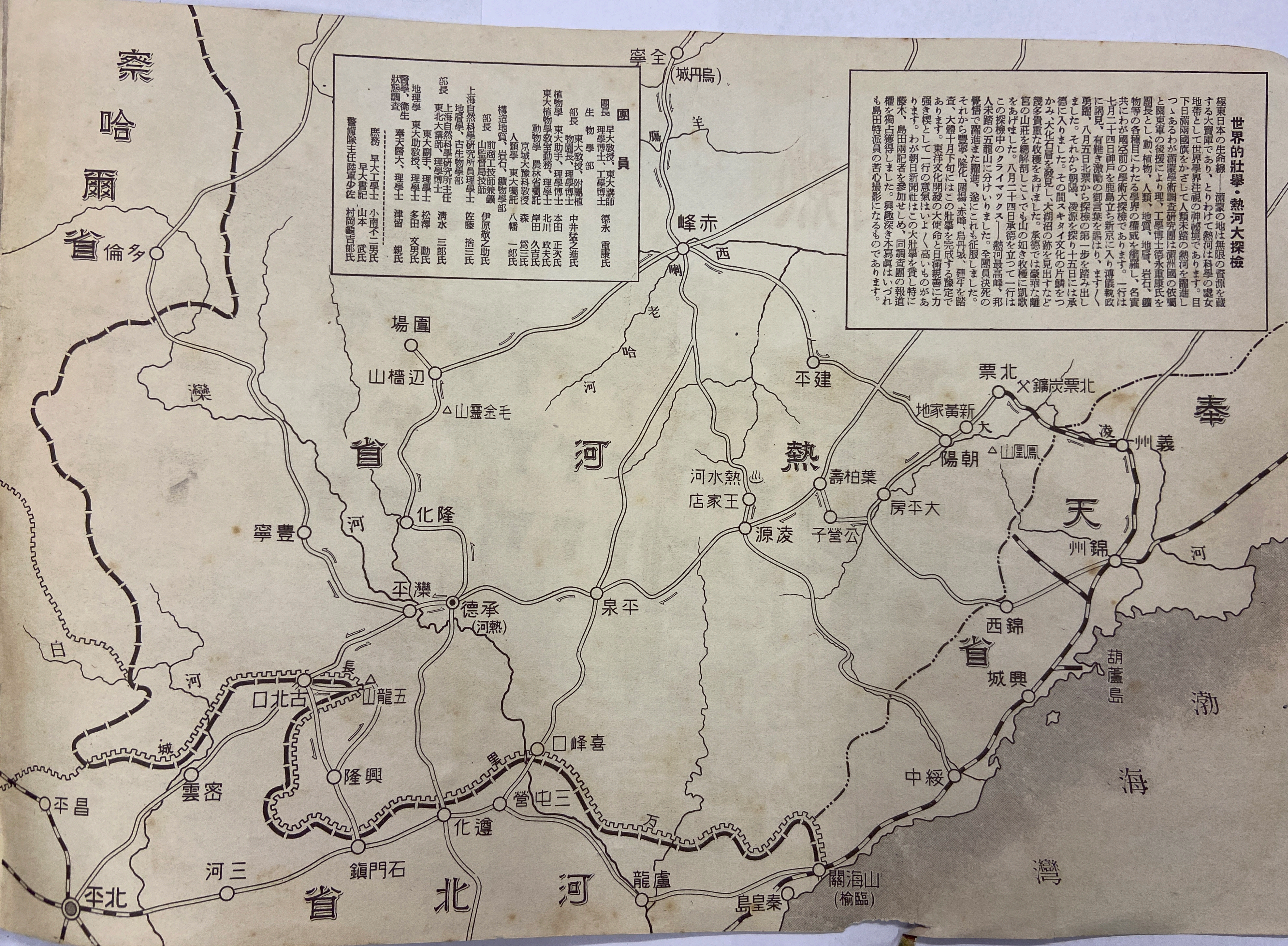


承德行宮視察の調査圖

世界的壯舉・熱河大探検

極東日本の生命線——滿蒙の地は無限の資源を蔵する大寶庫であり、とりわけ熱河は科學の處女地帯として世界學界注視の神祕國であります。目下日滿兩國旗をかざして人類未踏の熱河を闢進しつつあるわが滿蒙學術調查研究團は滿洲國の依屬と關東軍の後援により理、工學博士德永重康氏を團長とし、動物、植物、人類、地質、地層、岩石、礦物等の各種目にあたる學界の權威を網羅し、名實共にわが國空前の學術大探検であります。一行は七月二十四日神戸を鹿島立ち新京に入り、導儀執政に謁見、有難き勅諭の御言葉賜はり、まず八月五日北票から探検の第一歩を踏み出しました。それから朝陽、凌源を探り十五日には承德に入り、その間スキタイ文化の片鱗をつかみ、大化石層を發見し、大湖沼の跡を見出すなど幾多貴重な收穫をあげました。承德では豪華な離宮の山莊を總解剖し、でも山の如き收穫に凱歌をあげました。八月二十四日承德を立つて一行はこの探検中のクライマックス——熱河最高峰、邦人未踏の五龍山に分け入りしました。全團員決死の覚悟で闢進した闢進、遂にこれも征服しました。それから豐寧、隆化、圍場、赤峰、烏丹城、建寧を踏査、大體十月下旬にはこの壯舉を完成する豫定であります。東洋文化開發の大使と目され、力強く、一行の意氣は、いよいよ高いものがあります。わが朝日新聞社はこの大壯舉を實し特に藤木、島田兩記者を参加せしめ、同調査團の報道權を獨占獲得しました。興味深き本寫眞はいづれも島田特派員の苦心撮影になるものであります。

- 團員
- 團長 早大教授、東大講師 理學博士、工學博士 德永 重康氏
 - 生物學部 部長 東大教授、附屬植 物學 東大助手、理學博士 中井猛之進氏
 - 植物學 東大助手、理學博士 本田 正次氏
 - 東大植物學部助務、理學士 北川 政夫氏
 - 動物學 農林省囑託 岸田 久吉氏
 - 京城大豫科教授 森 爲三氏
 - 人類學 東大囑託 八幡 一郎氏
 - 構造地質、岩石、礦物學部 部長 前商工技師兼鐵 山監督局技師 伊原敬之助氏
 - 上海自然科學研究所理學士 佐藤 捨三氏
 - 地層學、古生物學部 部長 上海自然科學研究所主任 清水 三郎氏
 - 東北大學理學博士 松澤 勳氏
 - 東大助手、理學士 多田 文男氏
 - 醫學、衛生 奉天醫大、理學士 津留 親氏
 - 狀態調查 庶務 早大工學士 小南不二男氏
 - 早大書記 山本 武氏
 - 警備隊長佐佐木少佐 村岡龜吉郎氏



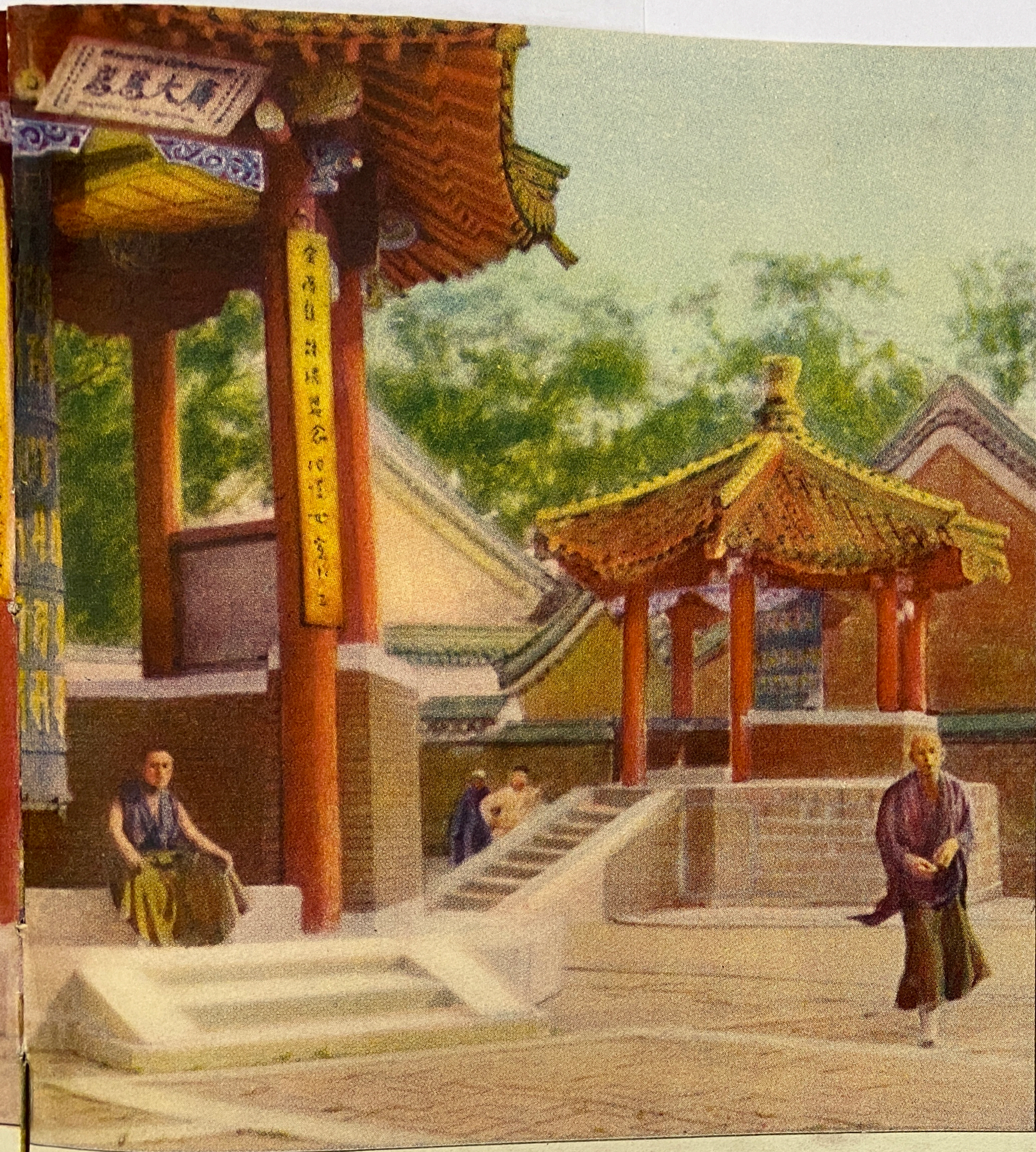
地質調査へ躍進

一行は八月八日車を連ねて
朝陽の東方十六分頭營子
附近の地質調査に向った。
果しなき曠野を彩る緑林、
灼きつく大陸の日輪は樹陰
を黄褐色の大地に長くく
おとしてゐる

探検の第一歩

調査團の一行は八月五
日の早朝、北票から日
満兩國旗を先頭に重鎧
探検の第一歩を踏み出
した





轉經
喇嘛廟には必ずつきものの
轉經といふものがある。
寫眞の如き西藏文字を刻
んだ金屬製の圓筒でぐる
ぐる廻轉出来る



歩武堂々・科學の戰士
朝鮮陽附近を進軍中のこと



承德の街のスナップ



味ンダモの徳承

るあは味ンダモの脈一もにルソラバくゆを街の統傳



奇怪の徳承

部一の塔瓏珍るあに内莊山暑避

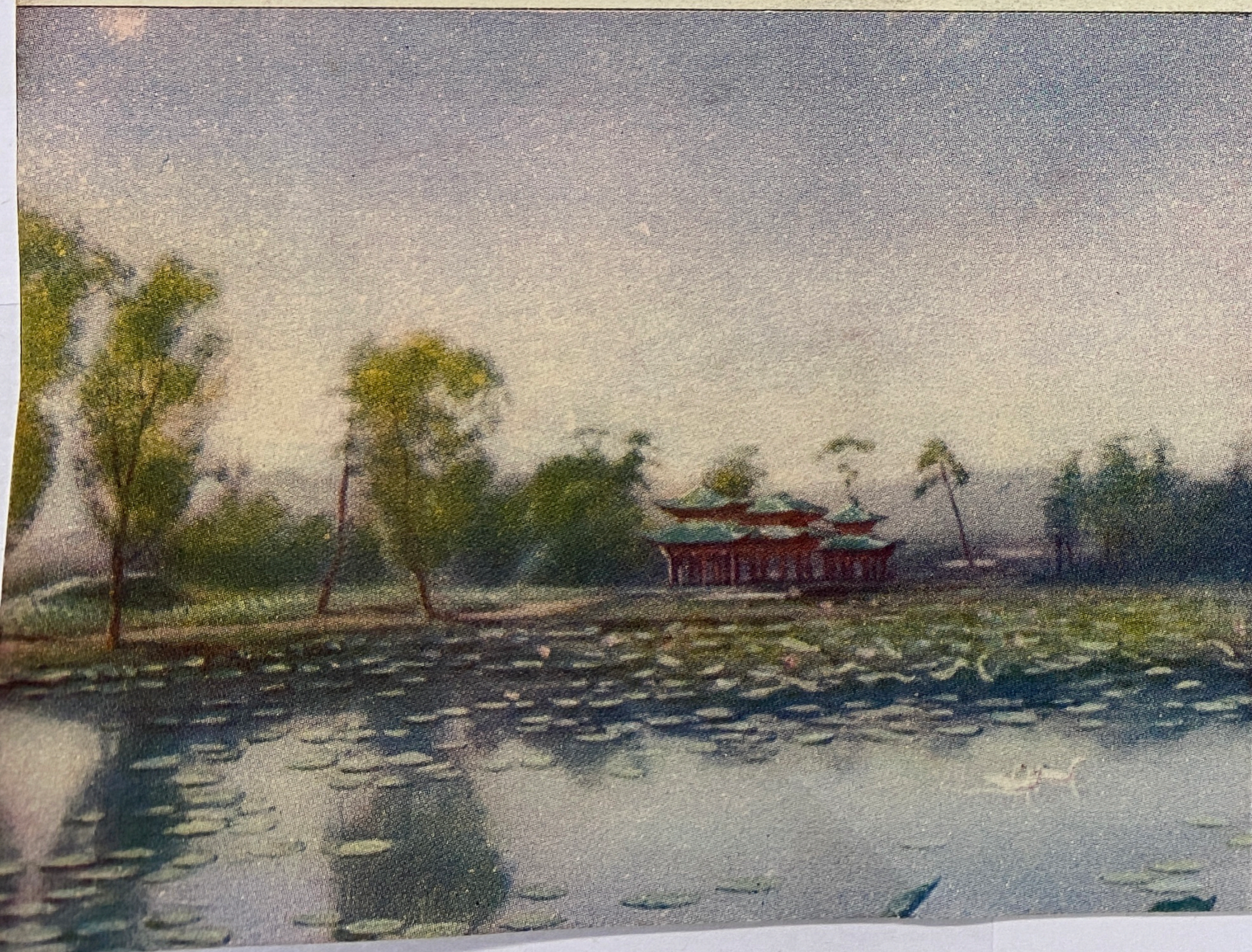
花の河熱
しけ



かくはしき

秘苑

承徳離宮の泉は二
百年以上も手を
けない自然のま
に水生植物はのび
のびと生育し水禽
類は悠々と泳いで
る。花の王者蓮
がいまを盛りと咲
きこぼれてゐる

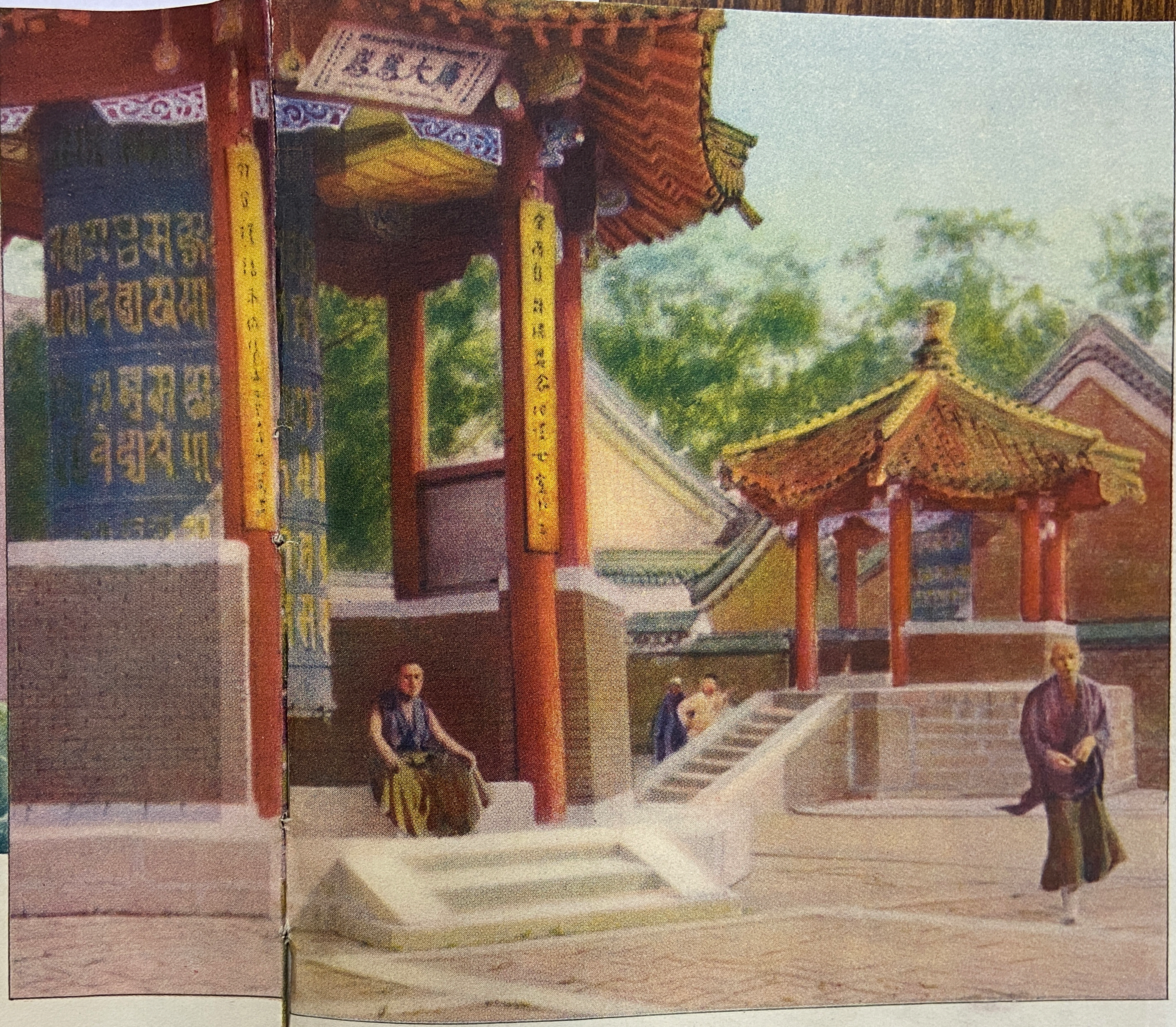


駄轎

熱河での主な交通機
関。二頭の馬の脊に
轎を脊負はせて人を
運ぶ



承德の街のスナップ



轉經

喇嘛廟には必ずつきのものの轉經といふものがある。寫眞の如き西藏文字を刻んだ金屬製の圓筒でぐるぐる廻轉出来る

馱轎

熱河での主な交通機關。二頭の馬の脊に轎を脊負はせて人を運ぶ

熱河の花
しけ



承德
避暑



宛ら水族館・魚の化石
八月十三日 王家店で採集



塔マラの陽朝ぶ浮とりきつくに陽夕



險峻をよぎて
朝陽東方分頭營子附近
で化石採集中の一行、
警備隊も勇躍任務につ
いてゐる

樹蔭を進む調査団



朝陽の街



水槽



世界一の
木造佛

承德離宮に沿うてそのかみの豪華な夢の深ふ熱河の流れのかたに高く低く八大伽藍の美の殿堂が展開する。世界一の木造佛を秘めた大佛寺はその代表的なもの。空を壓する三層樓の中に高さ七丈、寫眞の如き千手觀音が慈光を放つてゐる。

麗しき

傳統野

外劇

調査團が承
徳滯在中祭
禮があり、
山手の一角
に鎮座する
關帝廟の舞
台で支那劇
が催され
た。……俳
優はこここ
とく承徳の
市民だとの
ことだった
が、いづれ
は満朝の盛
んだった時
代に北京か
ら行幸の列
に加はつて
はるばる熱
河に來た藝
人の子孫で
もあらう。
石造の舞台
といひ、衣
裳の立派さ
といひ巧み
な藝風とい
ひ、それに
野外觀覽席
に居並んだ
見物の品位
ある身のこ
なしなどど
う見ても夢
の國を逍遙
してゐる心
地がした。
(藤木特派
員探検記の
一節から)



鬼ふすへ
鳳凰山(朝陽附近)で中井博士が採集したもの



大佛寺見物の一行
背景に荘麗な大伽藍の
片影を見る



大收穫の
日は暮れて

流れ遠い大凌河に日は傾いた。凌源を去る三里餘、王家店へ魚の化石發掘に赴いた科學の戰士たちは思はざる大收穫に雀躍して陣營に歸りを急いでゐる。蒙古馬は秋風にいななき、先頭の苦力たちの擔ぐ籠には收穫が重く重く積まれて……
(八月十三日)



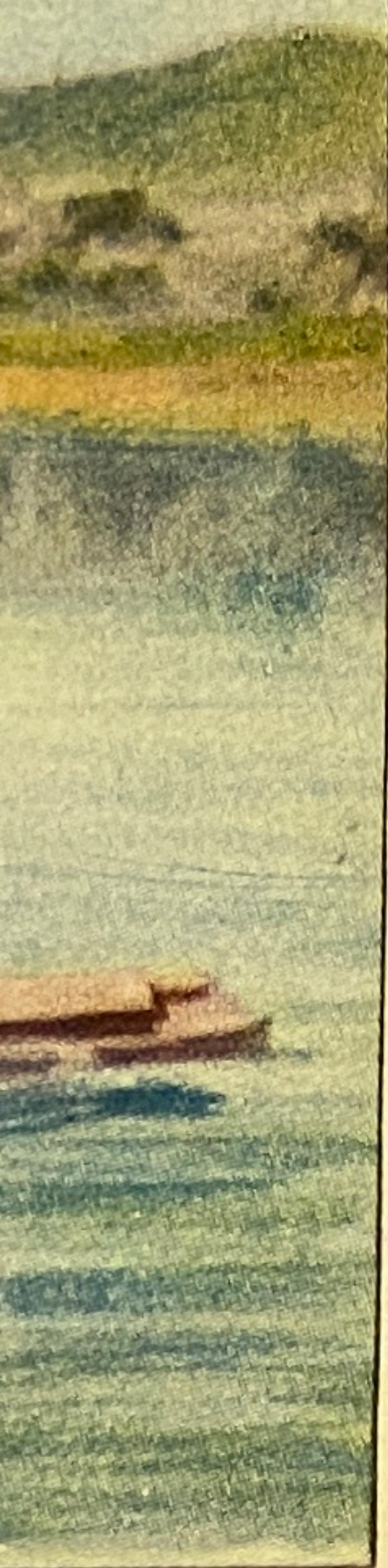
空から眺めた長城
古北口附近、流れにとぎれる長城のあたりまことに壮麗な景観である。



木りどや
な山澤になんこはに樹老の近附徳承
すで事見が木りどや

機社本るす躍活
(てに徳承)前直す出び飛へ祭偵の面方山龍五





普他拉の壯觀

その音聲華を誇つた普他拉の上空を飛んで機
上からシャッターを切る。夢のやうな麗はし
い風景だ

山莊第一
の獲もの

離宮の山莊總解剖を
開始した調査團一行
は銃聲秘園に射する
と見る間に見事大雌
鹿を射止めた。重量
はたしかに三十貫を
こえる大ものであつ
た



秘園の池を探る
土博田本で池の宮離るす茂繁まさふ思の草水
るあで中集採を物植生水とりきしは

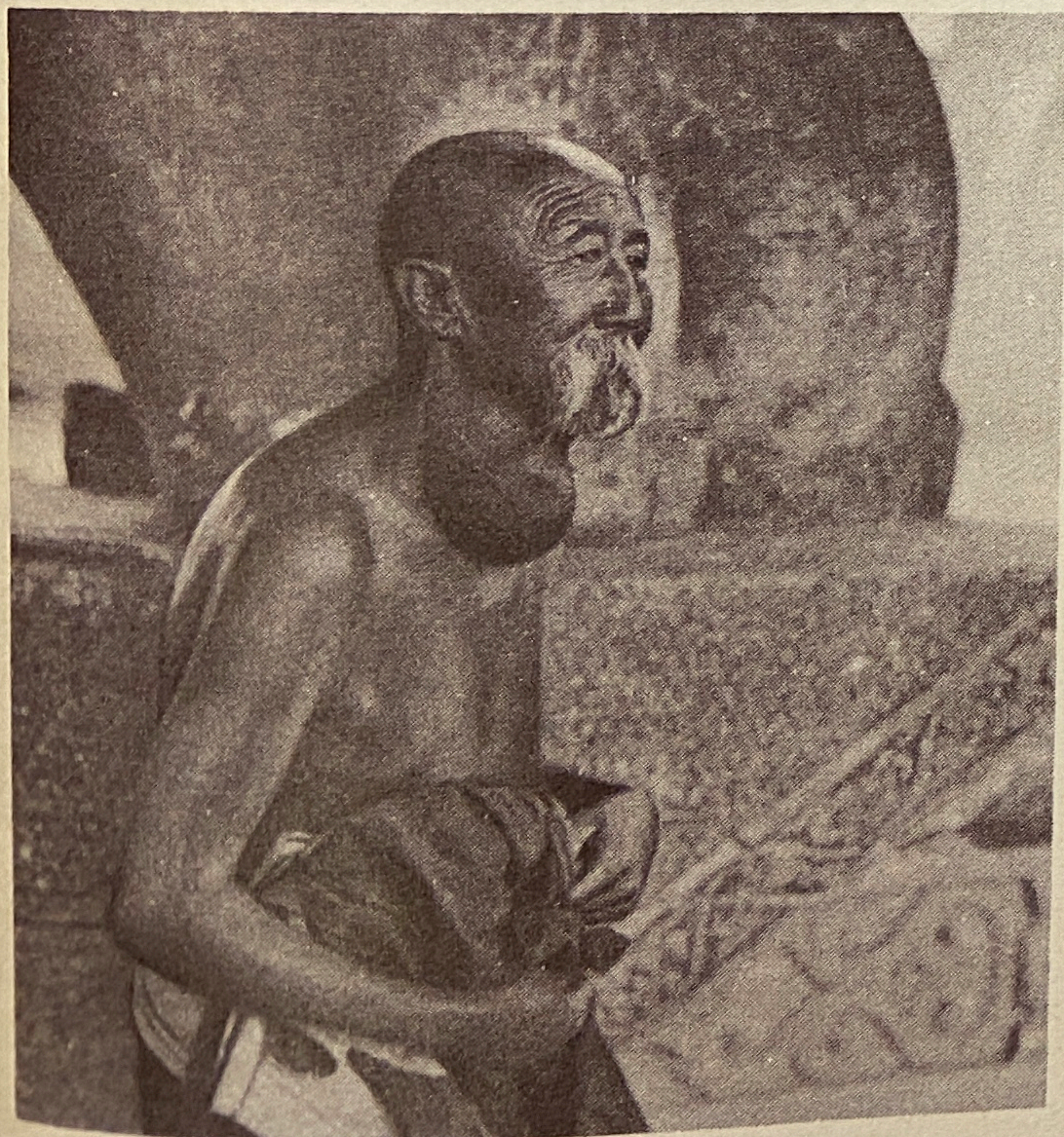
普他拉の壯觀

その昔豪華を誇つた普他拉の上空を飛んで機
上からシャッターを切る。夢のやうな麗はし
い風景だ



熱河最高峰五龍山

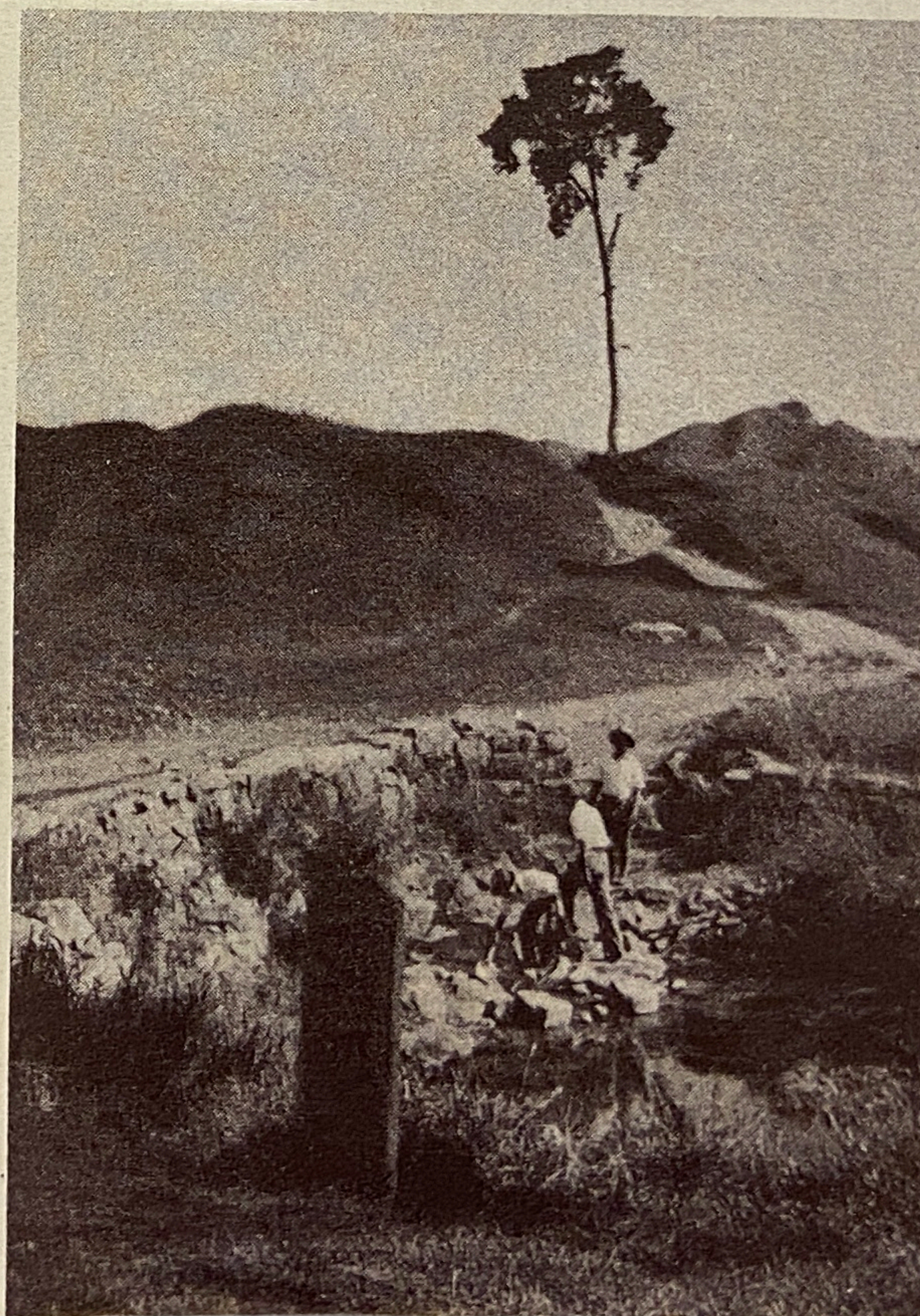
探検中の最難關——熱河の最高峰五龍山（二千五十米）は探査に先
立つて本社飯沼機が偵察飛行を決定した。寫眞は古北口方面の萬
里の長城附近から遙かかなた雲の冠をいたゞく五龍山を機上から
遠望したところ



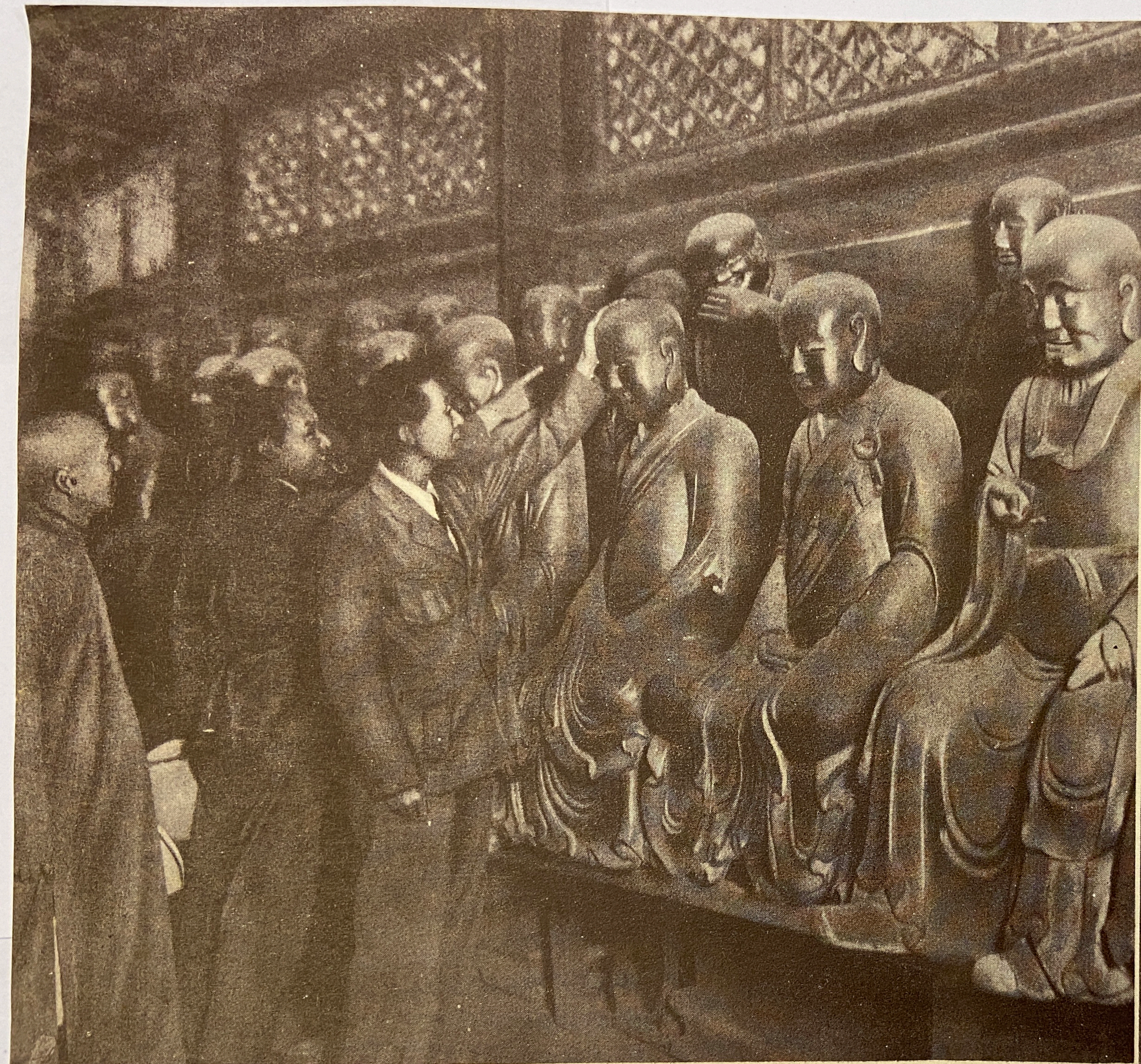
承德の風土病

甲状腺に異状を來し悩む姿を御覽下さい

縁りの記念碑
離宮内泉のほとりに建てられた熱河の名
のおこりをなす古碑



旅に楽しき野天風呂
承德の團員宿舎は風呂にたつ永徳團長



察視寺漢羅德承
行一の長團永徳の

興隆縣の市街
探検隊に加はつた本社
飯沼機が五龍山の偵察
飛行の途、發見した地
圖にない興隆縣の街



商隊るた々悠
商隊ぐ急へ徳承を中の光風の陸大





水 光 大 河

大阪朝日新聞社印刷部

大阪朝日新聞社發行